

東京病院ニュース

第68号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~tokyo/>

院長就任のご挨拶

独立行政法人国立病院機構東京病院院長 當間 重人



2018年（平成30年）4月、独立行政法人国立病院機構東京病院院長を拝命致しました當間重人（とうましげと）と申します。

さて、私が何者であるかを紹介させていただく前に、前院長である大田 健先生の足跡を確認したいと思います。と申しますのも、大田 健先生が院長として赴任なさった2012年4月以降6年間の間にも大きな展開があったことから、それをまとめておくことは当院の現状や今後の方向性を理解していただく上で有用だと思っております。感謝の意を込めつつ、以下に足跡を列挙いたします。

- 1) 地域医療支援病院の認定：医療連携体制の構築が評価されています。
- 2) 二次救急医療体制の構築：急性期病院として対応可能な救急患者の診療を行っています。
- 3) 各種センターの構築：診療科という区分けとは別に、複数の診療科が協力して対応すべき疾患群を明確にする、などの目的でセンターの構築がすすめられました。呼吸器センター、喘息・アレルギーセンター、消化器センター、総合診療センター、腫瘍センター、放射線治療センター、臨床検査センターが順次開設され、2018年度には8つめのセンターとして肺循環・咯血センターが組織されました。また、新たにリウマチ科を標榜するにあたり、喘息・アレルギーセンターは、喘息・アレルギー・リウマチセンターと改名されました。
- 4) ドックの開設：人間ドックおよび専門性の高い呼吸器ドック・消化器ドックを実施しています。
- 5) リニアックの導入：癌治療の有効性/安全性に優れた高機能の放射線治療機器が設置されています。
- 6) 東京都がん診療連携協力病院（肺がん）認定：診療実績が評価されています。
- 7) 日本医療機能評価機構による認定：急性期病院一般病院2・回復期リハビリテーション病棟Ⅰ・緩和ケア病棟・結核病棟・神経内科病棟（神経難病）が評価認定されています。
- 8) 医師の増員により、診療・教育・研修・臨床研究の質をより充実させることができました。

以上のように、東京病院の機能充実に向けての努力が継続され、そして評価されてきたことがお分かりになると思います。もちろん、これらの展開が東京病院だけの努力でもたらされてきたわけではありません。医療連携における連携施設の多大なるご協力に感謝申し上げます。

ここで、私（當間重人）について紹介させていただきます。本年1月1日付で独立行政法人国立病院機構相模原病院から東京病院へ参りました。専門領域はリウマチ・膠原病です。担当医師が少ない状況での開設ではありますが、リウマチ科を標榜しました。この地域におけるリウマチ・膠原病の診療に尽力するつもりでございます。

恵まれた自然と設備の整った立派な建物、すばらしいスタッフの揃った当院が、「自分や自分の家族がかかりたい病院」であり続けるために、たゆまぬ意識改革を行って参ります。そして患者さんにとってより快適で充実した医療を受けることができる病院づくり、また職員全体にとって忙しくても気持ちよく楽しく働ける職場環境づくりのため、さらなる発展に努める所存でございます。

2018年（平成30年）4月吉日



連携医の方を紹介します

大波クリニック

院長 大波 ま志ろ 先生

標榜科

小児科、内科、皮膚科



【院長からの一言】

夫（故大波克夫）と東久留米で開院して、40余年経ちました。

地域の方々とのお付き合いも長く、皆様の健康管理に医療連携が欠かせない昨今です。よろしくお願ひ致します。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:00	○	○	休	○	○	○	休
午後 15:00 ~ 17:30	○	○	休	○	○	休	休

- ※ 祝祭日は休診
- ※ 各科目について、十分な説明と治療を行い、必要とあれば専門医、専門医療機関を紹介いたします。

所在地：〒203-0043

東久留米市下里 7-6-2

連絡先：TEL 042-473-7355

アクセス：西武池袋線東久留米駅西口より「武蔵小金井駅行き（錦城高校経由）」バス
中央線武蔵小金井駅北口より「東久留米駅西口行き（錦城高校前経由）」バス
「都大橋」下車 徒歩 5分
西武池袋線清瀬駅南口より「下里団地行き」又は「花小金井駅行き」バス
「下里団地」下車 徒歩 5分



連携医の方を紹介します



新狭山セントラルクリニック

院長 相良 勇三 先生

標榜科

内科、呼吸器内科、皮膚科、
小児科、外科



【院長からの一言】

東京病院に16年ほど勤務した後、へき地医療に従事、現在は狭山市でクリニックを開いております。専門の呼吸器疾患はもとより小児科・皮膚科など幅広く診させていただいております。病気の治療も大切ですが病気にならない健康な体作りにも心がけてください。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:00 ~ 12:00	○	○	休	○	○	○	休
午後 15:00 ~ 17:30	○	○	休	○	○	休	休

※：受付終了は30分前です

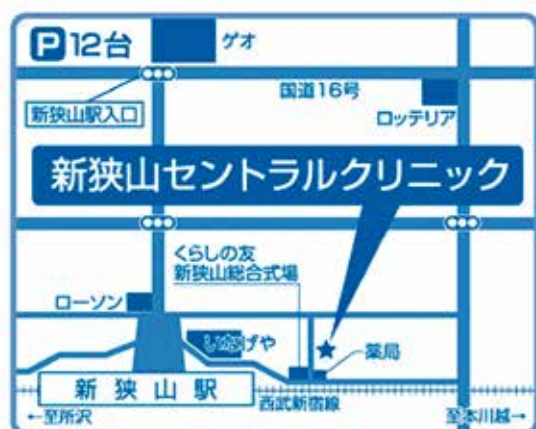
休診日：水曜午後、土曜午後、日曜、祝日

所在地：〒350-1331

狭山市新狭山2-2-1

連絡先：TEL 04-2900-2222

ホームページ：http://www.shinsayama-clinic.jp/



●西武新宿線 新狭山駅北口より徒歩1分



退任のご挨拶

院長退任のご挨拶

まず始めに6年間の院長としての勤務を無事に終えることができました事を心より御礼申し上げます。これもひとえに、病院職員、連携医の諸先生、東京大学や帝京大学の同僚、友人、そして恩師の先生方の御支援の賜物であり、感謝の気持ちで一杯です。65歳の定年までの3年間は官舎に住み、病院の経営を黒字化に向かわせる事ができました。定年延長となった後半の3年間は文京区の自宅から6時起きで通勤して職責を果たすことが出来ました。森の中にあるホテルのように立派な建築物をもつ東京病院は、世界でも稀な素晴らしい環境に恵まれた病院です。私が頑張れたのも、このような素晴らしい条件を備えた病院をもっと活用しなければ勿体ないと言う気持ちを強くもったこと、および私なりの理想の病院像を実現したいと思ったことがあったからだと思います。医療に当たる人間には、想像を超える多様性のあることに驚きまた悩むことも体験致しました。とくに医師に見られる variation は、大学で20年間学生教育を担当した経験を超えるものでした。医療は威張ってやるものではない、医療を行う環境によってブレる事なく誠意をもって患者さんと向き合いベストを尽す心がまえが大切である、多くの患者さんが受診を希望する臨床医であるべきだ、などを大切にしながら医者をやらなければならないと言う観念を持ち続けているので、きっとギャップを感じる先生も多かったことと思います。私の在任中に出来たことは、まず多くの患者さんが受診できる環境を整えることで、診察時間の延長、シャトルバスの運行開始、診療態勢の見える化の一環としてセンターと言う名称による診療科のグループ化、東京都地域医療支援病院の認定、清瀬市医師会を始めとする近隣医師会との連携を密にして病診連携を推進し連携医を増加、東京都がん診療協力病院（肺がん）の認定などです。病院の機能評価も一般病院2として再認され、新たに副次機能として緩和ケア病院としての認定も受けました。もうひとつは、臨床研究部を人と設備の面から整備し、translational researchのできる体制にしたことです。遺伝子を意識した研究も想定してDNAバンクも確立しました。東京病院には明るい未来が待っていると思います。持ち味である呼吸器領域をさらにレベルアップして、わが国の呼吸器をリードする存在を目指して下さい。需要の高い消化器や循環器領域の充実、泌尿器科や眼科で見られているような頑張りが他の外科領域でもみられれば万全の体制となります。私の後任の院長である當間先生のリウマチ科の発展も病院の将来につながるものと期待しております。今後とも、自分や家族がかかりたい病院、忙しくても楽しく仕事のできる病院として、東京病院が発展することを祈念しております。また、東京病院を支援して頂いております皆さまのご健勝とご発展をお祈りしております。本当にお世話になりどうも有難うございました。

平成30年4月吉日

大田 健

退職者紹介

東京病院での10年

副院長 庄司俊輔

ちょうど10年前の平成20年4月、国立病院機構福岡病院から転勤して東京病院の臨床研究部長に就任しました。ちょうど外来の空き診療室がなかったこともあり、当時の四元院長と勝又事務部長にご尽力いただき、臨床研究部の病態生理研究室の跡に新たにアレルギー科関連診療室を作っていました。現在外来棟2階にある、内科（アレルギー科）、耳鼻咽喉科、皮膚科、そして受付7番および処置室はその際にできたものです。その後大田院長が着任されたこともあり、アレルギー科はさらに発展し、全国でも有数のアレルギー診療施設になり、現在に至っています。

在任中の記憶に残る出来事としては、創立50周年記念病院祭が挙げられます。1962年に国立東京療養所と国立療養所清瀬病院が合併して国立療養所東京病院が誕生してから50年の節目である2012年に行われました。病院祭バザーや、子供のための綿菓子づくりやお菓子のつかみ取りもあって、来場者は2000人を超え、外来ホールが立錫の余地もないほど埋まりました。この催しはこの後も引き続き開催されており、毎年好評かつ盛況であるのはご存じのとおりです。

広大な敷地と豊かな自然のある光景は、都内の病院としては得難いものです。毎朝東京病院北口バス停から管理棟入口まで森の中を歩いて通った思い出は今後も忘れられないものになると思います。獐猛な鳥に襲撃されたのも今思えば貴重な経験でした。

東京病院の今後の発展と職員の皆様の健康を祈念致しております。

退職のご挨拶

放射線科 診療放射線技師長 細越 光夫

平成28年4月より2年間東京病院に勤務させていただきました。昭和54年4月採用で国立水戸病院から数え東京病院は8施設目となりますが、3月31日をもちまして定年退職となりました。東京病院勤務当初はリニアック装置が更新中で、皆様からご指導いただき9月に開始することができました。これまでできなかった定位照射を含め安定稼働することができました。これからも安全で質の高い検査を安心して受けられるよう研鑽を重ね、さらに地域医療に貢献できるよう放射線科が東京病院と共に発展していくことを祈念して退職の挨拶とさせていただきます。長い間お世話になり感謝申し上げます。

第15回 結核研修セミナー



臨床研究部長 松井 弘稔

東京都医師会と東京病院共催で毎年行い、今年も平成30年2月3日（土）に学士会館で、無事に行われました。出席者は121名でした。昨年は、プログラムで予定されていた時間を30分以上超過してしまいましたが、今回はほぼ時間通りのスムーズな進行でした。昨年は、もう一つのアクシデントとして、院内講師が一人、発熱で講演できない事態となりましたが、今

年は全員が体調万全で、予定通りの講演が行われました。終了後のアンケートでも、内容などについて概ね、高評価をいただきました。参加していただきました医療関係者の方々、ありがとうございます。

出席者に回答していただいているアンケート結果をもとに、今回は、テーマとして外国人結核と小児結核を取り入れました。外国人結核は東京都の結核統計でも次第に比率を増しています。高齢者結核とともに、外国出生者の結核に対する対策は今後の大きなテーマの一つで、数の増加のみならず、薬剤耐性という面でも対応が必要です。小児結核のテーマの中でも外国生まれの小児の結核の比率が高まっていることが問題点として挙げられていました。

また、日常診療で結核患者を見ている呼吸器内科の医師からも、「勉強になった。」という声が出たのが、小児結核の話です。特に、乳幼児の結核に対する考え方や治療の必要性に対する考え方が、成人と異なることを今回学べたことは大きかったと思います。一言でいうと、感染や発病の診断よりも感染のリスクで治療するかどうかを決める、ということになると思います。乳幼児は、感染の診断が難しく、発病してしまうと重症化したり、後遺症を残したりするので、感染のリスクが高いと判断した時点で治療をする、ということでした。

結核診断のコツでは、結核の診療を普段はあまりしていない医師に向けて、どういう患者さんを見たら結核を疑うべきなのかとか、結核を疑ったらどういう検査をしてその結果をどう解釈するのか、といった内容で講演がありました。現在、東京病院呼吸器内科の中堅医師が当院で経験した症例などを中心に、典型的な症例から判断に迷うような症例まで、非常に多くの症例が出てきました。実地診療に役に立つ内容でした。

結核治療のコツでは、肺外結核の診断・治療が肺結核と異なる点や、結核治療中に肺陰影や他の病巣が悪化した場合の考え方・対処法などが、やはり、具体例で示されました。この辺りは、他の医療機関からよく東京病院に患者さんが紹介されてくる部分なので、おそらく、先生方が診療の中で迷ったりすることの多いところと考え、テーマとして取り上げました。院内での予行では、若手やベテランの先生から様々な意見が出され、本番ではまとまった発表ができたと思います。来年は平成31年2月2日（土）に同じく学士会館で午後1時30分から開催予定です。多くの医療関係者の興味を引く内容をこれから考えていきますので、ご興味があればぜひご参加ください。以下に、今年の講演の演題名と発表者を示します。

肺循環・喀血センター開設のご案内

肺循環・喀血センター長 守尾嘉晃

新年度を迎え私たちは肺循環・喀血センターを開設し、パワーアップして患者さんへの医療提供の向上に努めてまいります。今までの喀血治療部門では、国際学会での発表や国内外医学誌への論文投稿などで診療実績の報告をし、患者さんへの医療提供とともに喀血治療に尽力してまいりました。この度、肺循環分野まで診療を拡大し、患者さんのニーズに益々お応えできるよう最善を尽くす所存です。私は呼吸器科医長をやっております守尾嘉晃です。肺循環・喀血センターの開設にあたり、センター長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

はじめに皆さんは「肺循環」についてご存知でしょうか。「肺循環」は、右側の心臓にある右心室の出口につながっている肺動脈から、左右の肺の血管を流れて左側の心臓にある左心房まで戻って来る肺静脈までの血流路です。それに対して、左側の心臓にある左心室の出口につながっている大動脈から、いろいろな臓器と全身の血管を流れて右側の心臓にある右心房まで戻って来る大静脈までの血流路を、「体循環」と呼びます。「肺循環」は、出生前の胎児には血流がなく、出生直後に血流が始まり、肺の発育とともに発達します。「体循環」の血流はいろいろな臓器や血管に分かれますが、「肺循環」では全身から戻って来る血流の全てを受けとめています。「肺循環」の血圧は、血管がしなやかであるため、「体循環」と比べて6分の1以下と低いことが知られています。また血液中の酸素分圧または濃度が低くなると、「体循環」の血管は広がるのに対して、「肺循環」の血管は縮む現象があります。このように同じ体にある血管でも、「肺循環」と「体循環」では違いがあります。

「肺循環」にみられる疾患の一つに肺高血圧症があります。肺高血圧症は様々な原因で出現し、現在その病型は大きく5つに分類されます。主要疾患としては肺動脈性肺高血圧症があり、左側の心臓の機能障害で出現する肺高血圧症、慢性血栓塞栓による肺高血圧症などがあります。東京病院の呼吸器科での診察で、間質性肺炎やCOPDの患者さんにも肺高血圧症が見られることがあります。多くの患者さんは、易疲労感、息切れ、胸痛を感じて、重症化すると失神もあります。症状だけでは他の肺疾患や心疾患と鑑別ができませんので、胸部CT(コンピュータ断層撮影)、肺機能検査、心臓超音波検査、肺血流シンチグラムなどを行って、様々な肺高血圧症の鑑別をしていきます。最終的にカテーテル検査を行って診断を確定します。カテーテル検査は、股の付け根の大腿静脈または肘の内側の上腕静脈にストローのような径1.5mmのカテーテルを入れて、肺動脈、右心室、右心房のそれぞれの血圧を測定します。また同時に血液中の酸素分圧と濃度も測定します。カテーテル検査の結果を見て、薬物療法や酸素療法の方針を決めていきます。

私たちは肺高血圧症治療をしっかり行えるシステムづくりとして、循環器科医師と共同で検査を運営しています。肺高血圧症は、1990年代の新規治療薬の開発に伴い内科治療が著しく発展しましたが、依然として難病と考えられ、早期診断と治療が求められています。東京病院へ来られた際には、月曜日午後と木曜日午前は日下圭医師、水曜日一日は私が担当し、違う曜日では診察した医師と速やかに連絡を取って、スムーズな診療を心がけております。これからも肺循環・喀血センターとして、医療提供の向上につながるよう患者さんとともに肺高血圧治療に立ち向かってまいりたいと決意を新たにしております。どうぞよろしくお願いたします。

つづいて当院の喀血治療について紹介いたします。私は喀血治療部門の責任者をやっております呼吸器科医長の益田公彦です。はじめに皆さんは「吐血」と「喀血」の違いはご存知でしょうか。吐血は食道や胃などの消化管からの出血で、食道静脈瘤の破裂や胃潰瘍などからの出血で起こります。一方で咳や痰を伴い、肺から気管を伝って出血する症状が喀血です。喀血はほとんどの場合が「体循環」系の動脈血ですので真っ赤な鮮血を呈します。喀血の原因は様々ですが、当院の喀血専門外来に来られる患者さんの疾患を分類してみると、肺非結核性抗酸菌症や肺アスペルギルス症などの慢性的な感染症が原因で生じるものが全体の半分、気管支拡張症といって気管支に炎症を起こし気管支の破壊で生じてくるものが4分の1を占めます。いずれの疾患も気管支や肺に炎症が及ぶことで、気管支を取り巻いている気管支動脈などが切れて、気管支の中に真っ赤な鮮血が出血して喀血に至ります。

喀血は大抵の場合は止血剤の内服や点滴をしますが、難治性の場合はカテーテル治療を行います。股の付け根の大腿動脈という血管の中にカテーテルを入れて、出血している肺の血管まで到達させます。このカテーテルの中にさらに径0.8mmの髪の毛ほどの細かいカテーテルを入れて、肺の中で出血している一番近い場所まで到達させます。そして切れて出血している血管だけを選択的に詰め物をして出血を止めます。また、ここ10年はCT画像のめざましい進歩があり、身体の中の血管は造影剤を使って簡単に3D構成できる時代になりました。そしてカテーテル治療に使用する医療材料や医療技術の進歩により、カテーテル治療をより安全かつ確実にできるようになりました。そして東京病院ではこの医療の進歩とともに大喀血で急変される患者さんが激減していききました。

私たちは喀血治療をしっかり行えるシステムづくりとして、2010年に喀血専門外来を開設し、毎週火曜日に診療を行っています。ほとんどの場合は患者さんが受診されている呼吸器科の先生からのご紹介ですが、中にはインターネットで患者さんご自身が東京病院を検索され来院されることもあります。これからは守尾先生や循環器科の青木先生と力を合わせて肺循環・喀血センターを日本での中心的な治療センターに育て、引き続き患者さんとともに喀血治療に立ち向かってまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

結核について (15)

呼吸器内科 山根 章

前回も、結核の感染についてお話ししました。

要約すると、

- ① 結核は感染源から離れていても感染する可能性はありますが、感染力はあまり高くはありません。
 - ② 結核菌と同様に空気感染する麻疹（はしか）ウイルスに比べると、結核菌は感染力が400～500分の1であるという試算もあります。
 - ③ 結核の感染には注意しなければならないが、同時に不必要に恐れることはない。
- ということでした。

今回も引き続いて結核の感染について考えてみたいと思います。

結核の感染源は咳をしている肺結核患者さんであると、前に説明したことがあります。そして、その咳で放散される飛沫（しぶき）の中に結核菌が多く含まれている場合に感染力が高くなることも述べました。

ある患者さんの感染力を推定する場合に、患者さんが咳をするときに放散するしぶきを直接採取して結核菌の量を調べるのは大変ですので、患者さんが出す痰の中にある結核菌の量で代用しています。以前、述べたように痰中に結核菌が多くいる人は隔離の対象になっています。

また、感染危険度指数といって、ある患者さんが咳をしていた期間（月単位で表します）と痰中の結核菌の量の指標（0号から10号まであります）を掛け合わせた数字は、感染源としての危険度を測るのに有用であるといわれています。

感染源の方の条件がそのようなものであるとすれば、感染を受ける側（被感染者）についてはどうでしょうか。

これまで結核菌の感染を受けたことがなく、結核菌に対する免疫反応が作られていない未感染者には結核菌が感染しやすいことは間違いありません。以前（第二次大戦直後頃）には、中高年層の8割以上が既感染者（感染を受けたことがある人）だったのですが、現在は中年層では1割未満、高齢者でも半数程度が既感染者であると推定されています。従って、結核菌を吸入した場合に、感染が成立しやすい人の割合は増えていると考えられます。

また、体の病原菌に対する抵抗力（免疫力）が落ちている人は、結核菌に対しても感染を受けやすいといえます。例えば後天性免疫不全症候群（エイズ）の患者さんでは結核の感染・発病が多いことはよく知られています。また、免疫を下げる作用のある薬剤を使用している患者さんも結核の感染や発病の危険度が上がります。例えば、副腎皮質ホルモン（ステロイド）や免疫抑制剤・抗腫瘍剤などがそのような薬剤の代表です。

そして、感染源となる患者さんとどのように接したかということも感染の危険度に深く関わっています。結核の場合には患者さんから遠い場所においても感染する可能性があることは繰り返し述べたところですが、やはり、近くにいた方がうつりやすいことは間違いなく、普通、会話する程度の距離が危険といわれています。

今回のお話はこれで終わりです。

診療科目

- 内科
- 神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- アレルギー科
- リウマチ科
- 外科
- 消化器外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 泌尿器科
- 眼科
- 耳鼻いんこう科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 麻酔科
- 緩和ケア内科
- 感染症内科
- 病理診断科
- 歯科

「人間ドック」・「肺ドック」・「消化器ドック」受付しております。

<実施期間>「人間ドック」：平日の月・木・金曜日のみ

「肺ドック」「消化器ドック」：平日の月～金曜日

<受診を希望される方は>

完全予約制となっておりますので、ご希望の方は下記の予約センターまでお問い合わせください。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日 8:30～15:00】

受付時間：初診 8:30～14:00

(科によって、診療を行って
いない曜日、時間があります)

再診 8:00～11:00

予約センター 042-491-2181

(受付時間平日8:30～15:00まで)

専門外来案内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
禁煙(予約制)	火(午後)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器関係外来		
肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
咯血(予約制)	火(午後)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を咯血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
間質性肺炎(予約制)	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
難治性喘息外来 (予約制)	月・水・金(午前)	通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来(予約制)	水(午後)、 木(第1・3週のみ)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)
高次脳機能外来	木 (第1週・第3週のみ)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診)。
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、 リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)

地域医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約：診療依頼書をFAX送信して下さい

CT・MRI検査の申し込み：地域医療連携室へお電話下さい

地域医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30～17:15)

TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅より無料シャトルバス運行中
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分～4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分～7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

